

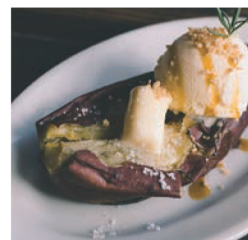
特集

昔と今が出会う場所

―残したい建物に新たな息吹を



木工のまち加茂の歴史を
今に伝えるカフェ



KIDORI

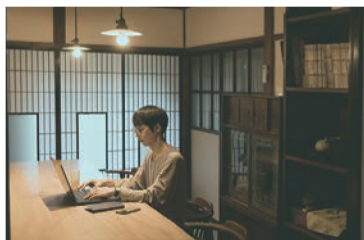
上条1-10

営：11時～17時
休：水曜日
他不定休



加茂市の有形文化財「加茂製材事務所」をカフェにリノベーション。天然木を使った板張りの外壁、木枠のガラス窓や天井など、製材所時代の趣をそのままに、最小限の改修で生まれ変わりました。オーナーは五番町商店街で親しまれている「難波食肉店」の4代目 泰弘さん。「自分の店を持ち、温かい料理をその場で食べてもらいたい」という長年の夢をこの場所で形にしました。看板メニューは熟成蜜芋を使ったデザートとオリジナルブレンドコーヒー。旬の果実を添えたバスケットケーキ、ランチには「越の鶏」を使ったスパイスチキンカレーも人気です。不定期に開く「夜キドリ」では、お肉のコース料理が楽しめます。木の温もりとやさしい光に包まれた空間で、ゆったりとした時間をお過ごしください。

※お問い合わせ、営業日時等の確認はInstagramより



古中天

新町2-3-24

(運営:長谷川工務店)

電：0256-52-2308



大正時代に料亭として建てられたこの建物は、昭和2年に新町へ移築され、以来、高齢の家主が一人で住み続けていた古民家。その後、長谷川さんの手に渡り、丁寧に修繕を重ね、令和3年に民泊・レンタルスペースとして新たな命を吹き込みました。長年使い込まれた木の風合いを残しながら、できる限り手を加えず、土壁や天井張りなど日本家屋の伝統的な建築手法で再生しています。「古中天」の名は、中国の故事「壺中之天」に由来し、日常から少し離れた特別な時間を過ごせる、非日常の空間であって欲しいという想いが込められています。外国人の利用客にも好評で1週間ほど滞在するケースもあるとか。「やっぱり『本物（無垢材と土壁）』は良いってことだね」と長谷川さんは話していました。

※ご利用料金やご予約の確認は公式ホームページより